2026_1109「都会のオナガたち」日々の理科 4474 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

東京都北区にある中学校の校庭で、オナガの群れに出会いました。校庭を囲むネットの支柱や横棒に、何羽ものオナガがとまり、甲高い声で盛んに鳴き交わしていました。黒い帽子をかぶったような頭、淡い灰色の体、そして空色の翼と長い尾羽が特徴です。カラスの仲間とは思えないほど優美な姿ですが、「ギューイ、ギューイ」という濁った大きな鳴き声は、なかなか賑やかです。写真には４羽が写っていますが、１羽は翼を広げ、今にも飛び立ちそうです。

オナガはスズメ目カラス科に属する鳥で、学名は Cyanopica cyanus です。全長は約 35〜39 センチメートルですが、その半分以上を長い尾羽が占めています。雌雄はほぼ同色で、外見だけでオスとメスを見分けることは困難です。日本では主に本州の東北地方から中部地方に分布し、特に関東地方では身近な野鳥です。

オナガは社会性が強く、群れで生活する習性があります。昆虫やクモ、木の実、果実などを食べる雑食性で、街路樹や公園、学校の植栽などを巧みに利用しています。仲間同士の連絡や外敵への警戒にも鳴き声を使い、繁殖期には仲間の子育てを手伝う個体もいます。都市の環境に適応した鳥ですが、近年は全国的に減少傾向にあることも指摘されています。人工物ばかりが目立つ都会の一角で、美しい青い羽を輝かせながら賑やかに暮らすオナガたち。その姿は、都市にも豊かな野鳥の世界が息づいていることを教えてくれます。

（2026 年 11 月上旬／東京都北区）

